

関 係 各 位

福岡県米・麦・大豆づくり推進協議会  
(事務局：J A福岡中央会 担い手・営農サポートセンター)  
(公 印 省 略)

## 営農情報 8

# 大豆の極晩播対策について

本年の大豆は、6月末からの断続的な降雨により播種作業が8月上旬まで大幅に遅れることが予想されます。一般に、播種が遅れると生育量が少なくなり、低収となるとともに、熟期の遅れから麦の播種まで影響してきます。

今後は、ほ場の土壌水分や播種後の天候に留意して、確実に出芽・生育するように播種を行いましょう（播種後1日以内に大雨の予報がある場合、播種しない）。

### 1 大豆の極晩播でのポイント

#### ○排水対策

- ・地表水を速やかにほ場外へ排水するため、排水口等を再整備する。

#### ○雑草防除

- ・播種前に雑草が多いほ場では、事前に非選択性茎葉除草剤を散布する。

注) 除草剤を処理する際は、隣接作物へ飛散しないように十分注意する。

#### ○大豆の播種

- ・土壌水分が適度になったら、できるだけ早く播種を行う。
- ・大豆の播種晩限までに、できる限り播種を完了する。

#### 大豆の播種晩限

県南部・・・8月10日まで  
県北部・・・8月 5日まで

表 播種期別の播種量

播種期	7月11～20日	7月21～31日	8月1～5日
条間 (cm)	70	60～70	50～60
株間 (cm)	20～15	15～10	15～10
播種量 (kg/10a)	4～5	6～8	7～9
1条1mの目標 出芽本数	14～18	20～25	25～30

- ・生育量を確保するため、種子量と播種予定面積を考慮して、播種量を増やす。
- ・基肥を窒素成分で 2 kg/10a 施用する。
- ・播種機が不足している場合は、麦用のロー式播種機の利用も検討する。

**【播き直しが必要な判断目安】**・・・健全株が7割以下と見込まれる場合（ただし、播種晩限も考慮して判断）。

- ・播種後に長時間冠水した場合、出芽の可能性が低い。また、冠水により茎葉に泥が付着したままの場合、枯死する危険性が高い。

## 2 播種後の天気予報に応じて播種の深さを調整

土壌の水分条件や播種後の天気予報に応じて、播種の深さ、鎮圧を調整する。

- 適度な土壌水分がある場合、播種の深さは3 cm程度を基本とする。
- 梅雨明け後、土壌が乾き、天気予報でしばらく降雨がない場合は、再度調整し、基準よりやや深く（5～6 cm）播種し、鎮圧するように設定する。

## 3 梅雨明け後の乾燥対策

稔実歩合や子実の充実を高めるためには、開花期～莢伸長・子実肥大期に適度な土壌水分が必要である。

- 梅雨明け後、天気予報でしばらく降雨がない場合は、本暗きよの栓を閉めておく。
- かん水が可能な場合は、うね間かん水を適切に実施する。
- 土壌が乾燥した場合は、中耕を控える（目安：中耕前10日間で20mm以下の少雨）。

## 4 中耕・培土の実施

根系の発達と地上部の生育を促し、雑草防除にも有効である。

- 遅播きは、生育量が小さいため、コンバイン収穫時の「土のかき込み」によって汚損粒の発生が懸念されるため、中耕・培土を5～6葉期頃の1回とする。

## 5 病虫害防除に留意

播種時期が大幅に遅れると、開花期も遅れるため、大豆の生育ステージに合わせた防除計画を立てる。

以上